

ウルリム
響

星 環

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌

第63号

2016年9月20日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: nskkikuno@gmail.com

聖公会生野センター 検索

ピビンバを知ってますよね

= 聖公会生野センターの願い =

呉 光現

聖公会生野センターが設立されて早 25 年目を迎えました。この間、日本は大きな震災を何度も経験し、私の国籍国である韓国では軍事独裁から民主化、そしてリベラル政権の誕生、日本でも政権交代が幾度かあり歴史の流れを感じています。

残念ながら「差別」というものが極端に現れたのが「ヘイトスピーチ」でした。これまで「差別とは陰湿なものであった」がヘイトスピーチはまるで娯楽を楽しむかのように「カラッと」、差別以上にマイノリティーの殺害までも路上で叫ぶ時代になってしまいました。戦後 70 年以上経ち私たちが住む「日本」はどこに行こうとしているのでしょうか？

最近、ピビンバのことをふと思いました。韓流が定着し生野区には多くの観光客が訪れるようになりました。しかしその大半の人たちは「コリアタウン」での買い物や食事だけで通り過ぎていき私たちの歴史に思いをはせる人は多くありません。

ピビンバを知っていても食べ方を知らない人は結構います。知らない人はご飯の上ののった具材等を混ぜずにそのまま食べようとするのです。ピビンバを日本語に訳すと「混ぜご飯」です。いろんな具材をスプーンで混ぜて食べることで味が交

わりおいしくいただけるのです。そしてそれぞれの味はそのまま活かされています。まさに生野区という地はいろんな人が行き交う所であり、それぞれが歴史や個性を持った人たちが作っている街です。

そして昔ほどではなくなりましたがその「違い」から人と人の間に葛藤が生じ人権が侵されることもあります。隣に住んでいても実はお互いのことをよく知らないことは多々あります。そしてそれが「多数者と少数者」の関係では上下の力関係が表面化することがあります。

そうではなく、ピビンバがそれぞれの個性を主張しながら愛されるように、日本人も韓国・朝鮮人もそれぞれの味を活かしながら上下を競うことなくハーモニーを醸し出して一緒に生きていく、そんなピビンバみたいな大阪の街になって欲しいといつも思っています。

小さな働きでも聖公会生野センターがそんなピビンバの役割をこれからも担って行きたいと思えます。

(お・くあんひょん 聖公会生野センター総主事)





生野区にある保育園での働き

早川育子

こひつじ乳児保育園は1992年4月に生野区に開園しました。私はその当時城東区に住んでおり、近さと乳児保育園ということでこひつじの採用試験を受けました。

こひつじで働き始めて、生野区に多くの韓国朝鮮籍の方がいらっしゃることに驚きました。私が住んでいた地域も在日の方がいらっしゃったのですが、通名の方が多く、ほとんど分からないまま育ってきたという感じでした。入社前に生野区にある保育園に研修に行かせていただきました。そこには本名で来られている子どもさんが多く、名前を覚えることが難しかった印象がありました。また、聖公会生野センターの呉さんにも生野地域の生活や歴史についての研修をしていただきました。その時に言われた事で覚えているのが、「保育園で子どもたちに他国の歌を伝える中で、英語の歌をうたうと、保護者はとても喜ぶのに、韓国の歌をうたうと、戸惑う保護者もおられる」ということでした。国際性豊かな場所での保育は色々な考えの保護者がおられるということが分かりました。

また、保育園で毎日過ごしている中で、あまり生活の違いは感じなかったのですが、習慣の違いは少し感じられました。お汁にご飯を入れて食べ

るなどといった習慣の違いを感じ、驚いたり学んだりすることが出来ました。その違いを私たちがどう理解し、子どもたちに伝えたら良いのか考えることもありました。

2003年から大阪市の4法人が加盟している日韓保育交流研修に協力園として加盟しました。初めは保育園の3階にある聖ガブリエル教会の牧師館を宿泊場所としてお借りし、当時の園長先生(齊藤祥子先生)が韓国から来られた研修生をお世話してくださっていました。私たちはあまり交流が無く過ごしていたのですが、2007年に韓国から来られた研修生が片言の日本語でコミュニケーションをとろうとくださった事から職員の意識も少しずつ変わり、その翌年は当時主任だった先生がこひつじの第1号として韓国の光州に2週間研修に行きました。

その後私も韓国に研修に行かせて頂き、もっと韓国のことが知りたいと思うようになりました。色々な歴史の背景もありますが、子どもを思う気持ちはどの国も一緒なのだということが分かりました。今後も生野区で一人ひとりを大切に保育に携わっていきたいと思います。

(はやかわ いくこ こひつじ乳児保育園園長)



韓国弘益大学インターン・聖公会生野センターでは昨年韓国弘益大学のインターンを受け入れています。10人の学生が「日本・日本語」「企業」「在日韓国人」などのテーマで1ヶ月学びます。そのレポートを一人紹介します。こうして等身大の日本経験が彼ら/彼女らの成長につながることを祈っています。

企業訪問の際、今直ちに関連がなく必要でないと思えることも見学することで知らなかった所が分かりました。大学の専攻ではない「関係がない」部分をインターンシッププログラムで生産の現場を見られたし経営者の話は学びになりました。成功のために他の人々と違うことをする。韓国に行った時ユニークな名刺を作って通訳費用を減らし事業を成功させたことやベトナムでは名刺と電話帳を使って取引先を探した話、果物をたくさん買って贈り物をし、印象に残させるという小さな工夫が何の縁故もない所で契約につなげたことなど成功した人々の特別な点だと考えます。

ロックペイントの場合には匠の精神を習うことができました。初めに事業を始めた工場が依然として残っていたという点とロックペイント担当の方々の誇りと匠の精神を感じることができました。ハリタ工業の場合には小規模で質が良いプラスチック部品を生産するという点が印象的でした。中国の安い労働力で供給される部品市場で誠意と時間を入れて生産された部品が競争力があるだろうか気になって質問をしましたが、やはり時間と誠意が入っただけ質が良い製品を作ってフランスなどの国に供給するなど自分だけの市場をよ

く切り開いている姿が真に印象的でした。モビオのような場合にはいつも「B TO B」(ビジネスからビジネスへ)の話を聞けて良かったです。企業と企業観の関係を通じてさらに効率的に関係を結ぶ姿に私がいつも考えている構成案を具体的に作る事ができる情報ができてうれしいです。

又、病院と社会福祉の関係で社会的企業を立ち上げ、障がい者を雇用し、自立を目指していることと福祉施設が本格的に運営された点が印象的でした。

在米韓国人のシャロン先生の講義では「自身が社会で何を考えて生きるがどんな位置で生きるがに対して悩んでみなさい」とのお言葉を最後にいただきましたがずっと記憶に残ります。私は私一人だが役割はいくつかあるのに周りを見て回る機会がなく自身だけ考えて生きた私に反省できる機会を与えてくれました。社会で色々な役割のうちに韓国人として生まれた韓国人としての責任と役割を感じるようになって重い感じもしました。

(4ページ上段へ \)

(3ページから)

在日韓国人に対して若干の知識がありましたが
直接在日韓国人の人生に対する話を聞いてその痛
みと傷と苦痛に心が痛みました。特に毎週在日の
青年団体に参加して、一緒に話をしその活動を聞
いた時、いまだにある差別が悲しかったです。本
当に他の言葉で表現できないほど悲しかった。
そこに参加し喜んで最後まで暖かく付き合ってく

ださって本当に感謝です。

夏期間にインターンシップをした喜びは「マ
ツリ」を見ることができたことです。期間中に
日本の三大祭り中、天神祭りと祇園祭りを見ま
した。直接体験して見たくて浴衣も着てしまし
た。不便な点もありましたが浴衣は美しく、か
らだが美しく見えて嬉しかったです。

写真でみる生野センターの働き



4・3行方不明者墓石

済州43事件で行方不明犠牲者の墓域、5千人以上
の人の墓がある。



4・3奉安殿

済州43平和公園にある犠牲者奉安殿。15,000名
の人たちの位牌が納められている。



ウィリアムス神学館・大阪実習

ウィリアムス神学館の3年に一度の「生野・釜ヶ崎」
実習。宣教の現場に役たつことを祈っています。

プール学院高校3年生 のりばん体験

毎年恒例になったプール学院高校3年生の聖公会生野センター
でのボランティア。若い人との交流で楽しく過ごします。



小路小学校

聖公会生野センター近くの小路小学校にいつもハルモニたちが招待されます。
チジミを食べて楽しいひととき。

韓国社会宣教 (写真下)

管区実施の韓国社会宣教研修旅行。移住労働者
の子どもたちと。



弘益大学 (写真上)

弘益大学学生10人が一ヶ月の間、インターン
で企業訪問と日本の学びをします。

2015 年度会費・献金納入者ご芳名 (2015年 4月 1日~2016年 3月 31日)

2015 年度も多くの方々のご支援をいただきました。感謝です。団体等でとりまとめてご送金くださったケースも多々あり、お名前が記載されていない方もいらっしゃるかもしれませんがご了承ください。(敬称略/順不同)

【正会費】

博愛社/石脇慶總/井出吉志子/こひつじ乳児保育園/早川育子/城下彰/長野泰信/佐々田国昭/出口弘/豊田商店/伊藤美佐子/宮脇一郎/嵯峨崎順子/武藤謙一/前田良彦・恂子/日本聖公会九州教区/井田泉/三浦恒久/井出吉志子/冷麵館/兒玉宣昭/奥晋一郎/小山俊雄/矢萩新一/尾崎茂雄/呉光現/齊藤壹/金秀男/張聖子/黒田裕/大田美智子/大西修/猿橋靖/加納佳世子/古澤恵依子/古澤秀利/小出裕司/青柳美知子/竹林徑一/川村昌子/鈴木憲二/林真澄/佐藤耕一/岩城聡/竹林徑一/春名英夫/堀江裕一/奥田哲夫/井上進次/宗像千代子/山本眞/大阪教区婦人会/須佐美浩一/岡本勝/呉光現/張聖子

【後援会費 A】

高地敬/香山まり子/木村多恵子/越山健蔵/寺本眞名/関ノリ子/浜名敏白/関正勝・澄子/茂木節子/佐々木庸/神谷尚孝/松浦順子/榎本房代/中出てる子/古谷美子/雨宮大朔/橋本克也/小山紀己子/林芳子/聖ニコラス天使園/塩田純子/広谷和文/近澤淑子/保坂久代/畑野めぐみ/上田高亮/中山一郎/松居勲/福田順子/横内洋子/小林幸子/大塚勝/堺聖テモテ教会/本井栄子/佐治孝典/丹羽なほみ/青柳亜矢/東敏勝/泉迪子/加納実/青柳正宏/今西時子/福永芽久美/森中央/内田照子/中芝正美/横内洋子/平田強治/内宮隆夫/桜井揚子/粟井操/植松喜久江/鈴木靖夫/中川裕之/茂木節子/佐野信三/橋本祥子/福田順子/齊藤祥子/後藤由江/畑野めぐみ/富谷晋/佐々木晶子/大阪聖アンデレ教会婦人会/藤田法子/上田浩子/田中廉/坪田敬子/本多修/大野吾子/佐藤悦子/三宅亨子/辻節子/島田由紀子/長野加代子/若村正博/佐谷和子/前原潔/桜井揚子/松田祥吾/三村タミエ/相楽弘子/江野隆夫/樋口敏雄/国津進・恵美子/川村輝夫/高橋新/早川文子/今村祥子/西村宣子/今西時子/福田順子/横内洋子/堺聖テモテ教会/山口善彦

【後援会費 B】

高見久江/アジア国際夏期学校/林香代子/武藤六治/岡野利治/藤永壯/植松誠/浮田真理/田辺聖公会愛の園シオン会/姜聖律/松本潤子/松本正俊/後藤由江/奥村貴充/加藤博道/林香代子/服部喜代司/服部慶子/高見久江/大西憲子/河野芳孝/河野紀子/竹林敏子/辻潤/高田日出男/岡本勝/博愛の園/石井英隆/プール学院/浅野忠章/工藤正路/中芝永次/八尾恵三/宇野徹/後藤由江/奥村貴充

【献金】

京都伝道区信徒伝道協議会/伊藤美佐子/五条聖三一教会/日本聖公会人権研修会信施金/大阪教区婦人会昇天日信施金/京都教区宣教部/大阪南地区 4教会信施金/大阪京都合同教役者会信施金/韓国弘益大学/京都伝道区婦人会/彦根聖愛教会/小林宏治/在日コリアン青年連合/高春子/工藤正路/齊藤壹/大阪城南キリスト教会有志/大阪教区教役者会/原田光雄/プール学院中高/宮古聖ヤコブ教会/豊田商店/無名/川瀬俊治/無名/岡田麗花/立教女学院/大西修/大阪教区婦人会昇天日献金/川口基督教会/大阪南地区 4教会信施金/大西憲子/川口基督教会/石橋聖トマス教会/西宮聖ペテロ教会/川口基督教会/齊藤壹/大阪城南キリスト教会/福田順子/大阪教区教役者会/原田光雄/プール学院中高/

【クリスマス献金】

聖マルコ幼稚園/大洲幼稚園/広谷和文/東京聖テモテ教会奉仕会/豊田幼稚園/聖ルシヤ教会/目崎宗世/榎本房江/深川あけぼの保育園/木村多恵子/岩田幼稚園/森中央/聖ルカ幼稚園/シオン幼稚園/聖マリア幼稚園/山根博子/姫路顕栄教会日曜学校/寺本眞名/畑野めぐみ/伊藤美佐子/川越キリスト教会/橋本克也/林香代子/香山まり子/市川聖マリヤ教会/千葉復活教会/城下彰/奥晋一郎/聖三一教会/石垣キリスト教会/前田良彦・恂子/武藤謙一/名古屋聖ステパノ教会/聖光教会/大阪聖パウロ教会/古賀久幸/関西韓国 YMC A /松戸聖パウロ教会/聖十字幼稚園/新宮聖公会/齊藤壹/後藤由江/富谷晋/中芝永次/尼崎ステパノ教会/岩城聡/大阪聖アンデレ婦人会/吉田哲子/村井幸子/大阪教区婦人会/古澤秀利/藤田法子/石橋聖トマス教会/高見久江/大阪教区連合男子会/尼崎ステパノ教会婦人会/西宮聖ペテロ教会/小出幸代/青柳美知子/大阪聖アンデレ教会/千松清美/内宮隆夫/聖ルカ教会/恵我之荘聖マタイ教会/林真澄/加納佳世子/芦屋聖マルコ教会/井上進次/守口復活教会/福永芽久美/大阪聖愛教会/聖ルシヤ教会/森中央/畑野めぐみ/鈴木憲二/大阪聖パウロ教会/中尾由紀子/大田美智子/川口基督教会

特定非営利活動法人 聖公会生野センターの第 12 回定時総会が 2016 年 6 月 19 日 (日) 日本聖公会 大阪城南キリスト教会で開催されました。

議長に理事長の磯晴久主教を選出の後審議に入りました。以下簡単ですが報告いたします

第 1 号議案 議事録署名人選出

議事録署名人として議長の他に岩城聡会員と竹林徑一会員が選出を可決承認

第 2 号議案 2015 年度事業報告承認

2015 年度事業報告は賛成多数により可決承認。

第 3 号議案 2015 年度収支決算承認の件

2015 年度収支決算報告可決承認。

第 4 号議案 定款変更の件

以下の 2 点について説明され全員賛成で承認

① 介護保険事業を行

② 外国人の宿泊提供事業を行う

第 5 号議案 役員選出の件

任期 2016 年 7 月 1 日~2018 年 6 月 30 日

以下の役員候補について議場に諮り賛成多数により可決承認

理事 磯晴久 / 理事 原田光雄 / 理事 呉光現 / 理事 鈴木憲二 / 理事 岩城聡

/ 理事 張聖子 / 理事 奥晋一郎 / 理事 加納佳世子 / 理事 谷川誠 /

理事 早川育子 / 監事 長野泰信 / 監事 佐々田国昭 /

第 6 号議案 2016 年度事業方針案承認の件

2016 年度事業方針案を説明し賛成多数で承認。

第 6 号議案 2016 年度予算案承認の件

2016 年度予算案を説明し賛成多数で承認。

2015 年度 特定非営利活動法人聖公会生野センター 会計報告及び 2016 年度予算

	勘定科目	2015年度予算	2015年度決算	2016年度予算
収入	受託事業収入	10,980,000	11,078,667	11,410,000
	利用者負担金収入	5,000,000	4,252,820	4,620,000
	会費収入	1,610,000	1,301,600	1,750,000
	分担金収入	1,560,000	1,560,000	1,260,000
	寄付金収入	3,700,000	3,811,473	4,150,000
	助成金収入等	100,000	200,000	20,000
	雑収入	240,000	232,196	215,000
	経常収入計	23,190,000	22,436,756	23,425,000
支出	勘定科目	2015年度予算	2015年度決算	2016年度予算
	事業費支出	4,669,000	5,058,075	5,108,000
	事務費支出	4,141,000	3,983,418	4,377,000
	人件費支出	14,200,000	13,469,514	13,760,000
	退職金積立金	180,000	180,000	180,000
	経常支出計	23,190,000	22,691,007	23,425,000
	経常活動資金収支差額	0	-254,251	0

上記会計報告にありますように2015年度は赤字決算です。あと一息で経常収支のバランスがとれます。皆さんの祈りと今一度のご支援をお願いします。

コラム・一粒の麦

もう一度、原点に帰りたい

フランシス 小山俊雄

数カ月に一度の理事会に「関東三教区生野委員会」代表として陪席させて頂いている。この委員会は聖ガブリエル教会の再興、生野センターの発足を機に関東でも関わりを持つと、北関東・東京・横浜の三教区から委員を出して運営している。活動は年2回開催する「日韓の歴史を学ぶ会」が中心で、ほとんどが講演会であるが、時折、韓国や日本の日韓の歴史の跡を残す場所へのツアーも実施している。今年4月には、その第51回目として生野に二泊三日のツアーを実施した。これは最近の理事会で、地元の大阪でも生野センターの由来を知る人が少なくなってきたという意見が出るようになり、もちろん関東でも同じくというより地理的に離れているだけに一層その傾向が強いと考えられるので、ここで原点に帰ろうということでこのツアーを計画した。残念ながら参加者は7名と

少なく、しかもほとんどがこれまでにずっと関わってきたメンバーであったが、呉総主事の案内によって生野センター現場の見学と説明、聖ガブリエル教会での主日礼拝等2泊3日のプログラムを体験できた。

生野センター発足時にはこれを出発点にして在日外国人や地域に関わる働きを全国各地に展開するという目標があったと記憶しているが、一部では実施されているものの、まだ十分とは言えない。当時とは在日外国人の状況は大きく変わっているが、彼らの人権状況は不十分なままである。もう一度ねじを締め直して生野センターとともにこの難題に取り組もう。

(こやま としお 関東三教区生野委員、
横浜聖アンデレ教会信徒)

余 韻

日本選手の大活躍で終わったりオオリンピック。結構スポーツ好きの僕は午前中、職場で障がいのある人たちと結構楽しんだ。12時間の時差と言うことは日本の午前中はメダルのかかる場面を多く楽しめた。「商業主義」や「国威発揚」の道具と言われて久しいが二つのことが強く印象に残った。一つは「国家代表」ではない「難民代表」のチームが構成されたこと。各国、特にいわゆる先進国では欧米はもちろんのこと日本も含めて単一民族・人種ではない多様な人種・民族・文化の背景がある選手が当たり前のようにいたことだ。オリンピック憲章にはこうある。

「平和な社会を奨励」、「スポーツ人権の1つである」、「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的、財産、出自やその他の身分などの理由による、いかなる種類の差別も受けることなく」とあるが残念ながらその精神からは遠いのが現実だ。4年後に「国威」をかけた東京オリンピックはどうなるのだろうか？ いろんなところで多様性と寛容さが奪われている今の日本社会がこれに応答できるのだろうか？ (ぴっくあんちゃ)

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

- ◇正会員 年額 1口 10,000円
- ◇後援会員 年額 1口 3,000円から
 - ・郵便振込 00910-1-321780 「聖公会生野センター」
- ◇自由献金・クリスマス献金
 - ・郵便振込 00910-1-321780 「聖公会生野センター」
 - ・銀行振込 三菱東京 UFJ銀行 東大阪支店
普通預金 4654965 「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

TEL 06-6754-4356 / FAX 06-6224-7856

E-Mail nskkikuno@gmail.com

<http://www.nskk.org/province/ikuno>

発行人：磯 晴久

編集人：呉 光現